

令和7年度 地域連携推進会議 (共同生活援助事業) 議事録

日時：令和7年7月1日（火）13:30～15:00

場所：太陽の里交流ホーム

出席者：利用者…石飛宏多氏 利用者家族…上野公二氏 地域関係者…佐藤貴志氏
市町村担当…出雲市役所福祉推進課 砂田氏
矢野施設長 三島事業課長 共同生活援助担当福田

1、開会のあいさつ

矢野施設長より開会のあいさつがあり、地域連携推進会議の趣旨と重要性について説明。

2、参加者の紹介

出席者全員が自己紹介を行った。

3、議題

①グループホームと地域の連携

- ・グループホームの紹介、グループホームでの生活の様子をパワーポイントにて説明、報告した。・・・別紙参照
- ・共同生活援助事業の運営の概要
基本方針、利用状況、サービス内容、危機管理、非常災害、感染症対策の概要説明を報告、説明した。・・・別紙参照

②サービスの透明性、質の確保

- ・近隣からの苦情について

直近2年間での苦情2件の報告と主な対応策を共有した。

事例① なじまホームの駐車場にある柚子の木の葉が風に吹かれて、民家に飛んできた。
掃除が大変だったのでちゃんと処理をしてほしい。

⇒謝罪し、今後は気を付けることを伝え、ご理解をいただく。

事例② 近所の方から、散歩などですれ違った時にあいさつがない。
⇒散歩や外出時に、近所の方と会ったりすれ違った時には、元気よくあいさつをするよう利用者、職員とも周知をし、その後、外出時にはあいさつを心がけています。

- ・地域行事のご案内

11月3日に開催される「太陽の里まつり」への案内状を後日、送付することで来場案内をしました。

③利用者の権利擁護

・事故報告、ヒヤリハットの報告

最初に、事故報告とヒヤリハットの違いについて説明した。事故報告は、ケガや事故、誤薬、自傷、暴力など実際に被害を被った人がおり、どのような経緯でおきたか、家族への連絡、また再発防止の取り組みなどをまとめた報告書であり、ヒヤリハットは、事故が起きる可能性がある状況だったり、被害を被る人が出たかもしれない状況を記録したものである。

直近2年間でのヒヤリハットの報告と主な対応策を共有した。

事例① 19:30頃、入居利用者が夜勤者に報告した後、徒歩と自転車で忘れ物を取りに家に帰られた。

⇒ 事故はなかったが、夜間に利用者を出かけさせるのは危険であり、支援員に指示を仰いだり家族に連絡をとるよう注意助言しました。

事例② 世話人が利用者へ食後の内服薬を渡すのを忘れていたことがあった。また、利用者が世話人もしくは支援員の不在時に、自ら内服薬を取り出し服用していた。

⇒薬は必ず世話人または支援員が手渡し、服薬確認をするようにしました。

支援員か世話人が付けるよう勤務体制を整えました。

事故報告の事例はなかった。

質疑応答・意見交換

利用者 「グループホームの生活は、最初は不安があったが、近所の方からもよく声をかけられ楽しくやっています。食事はおいしいが、ご飯がちょっと足りない時があります。」

利用者家族 「うちの子も買物が好きで、移動販売車が来るのを楽しみにしています。お金の使い方の訓練もできるとのことで、訪問の回数を増やしてほしいです。」

地域関係者 「グループホームがあることは知っていました。利用者には、地域の草刈りや川そらじに参加してもらったこともあります。中のことは分かりにくいですが、今日のこの会で分かってきました。自治会内でも分かっていない方がいると思うので、地域の方にも協力が得られるように働きかけたいと思います。」

市町村担当「行政として、グループホームなど地域で生活している方のサポートをしていきたいです。地元の方とのつながりや関わりがあれば、利用者ももっと住みやすくなると思います。皆さんの理解と協力をお願いしたいです。」

4、閉会のあいさつ

矢野施設長より、施設行事の案内、地域と連携を深めるため、引き続き協力をお願いしたいとのあいさつがあり、閉会した。

次回開催予定：令和7年9月にグループホーム見学、意見交換の予定

(詳細日程は後日通知)